

伊丹ルーテル教会 全聖徒主日礼拝

2020年11月1日

前奏：

招きのことば：詩編 27 編 11-14 節

主よ、あなたの道を示し 平らな道に導いてください。
わたしを陥れようとする者がいるのです。
貪欲な敵にわたしを渡さないでください。
偽りの証人、不法を言い広める者が わたしに逆らって立ちました。
わたしは信じます 命あるものの地で主の恵みを見ることを。
主を待ち望め 雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

私たちは全聖徒主日の礼拝にあたり、信仰に生きた私たちの敬愛する先輩の兄弟姉妹が、あなたの御国で確かによみがえりの命を得ていることを覚えて、感謝をいたします。

私たちひとりひとりの生涯は、思いがけない試練と耐えがたい苦しみの連続であるように思うことがあります。私たちは悩み、焦り、望みも気力も失います。しかし、あなたは困難な歩みの中で、私たちにあなたが生きて働いてくださることを見せてくださいます。み言葉の約束の確かなことを経験させてくださいます。イエス様によって罪赦されているからこそ、神の子として歩めることを最高の幸せと感じます。

信仰の先輩の兄弟姉妹がただあなたに支えられて世にある生涯を全うして主の身元に迎えられましたように、ここに集う私たちの信仰の歩みを祝福し、ついにはあなたのみもとで安らぐことができますように導いてください。

主よ、今週も私たちを導いてください。家庭で、社会で、そして教会で、それぞれがいただいている使命に、今週も心をこめて歩みます。私たちの教会を、互いに愛し合い、高めあっていく交わりとして続いてお育てください。新型コロナ・ウィルスの感染は縮小の気配がありません。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：第1ヨハネ3章1-3節

御父がどれほどわたしたちを愛して下さるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。

世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。

愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。

御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。

福音書朗読：マタイによる福音書5章1-12節

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。

柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。

義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。
 平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。
 義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。
 わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。
 あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

讚美歌 312 番

1. いくしみ深き 友なるイエスは 罪とが憂いを とり去りたもう
 こころの嘆きを 包まず述べて などかは下ろさぬ 負える重荷を。
2. いくしみ深き 友なるイエスは われらの弱きを 知りて憐れむ
 悩みかなしみに 沈めるときも 祈りにこたえて 慰めたもう
3. いくしみ深き 友なるイエスは かわらぬ愛もて 導きたもう
 世の友われらを 棄て去るときも 祈りにこたえて 労りたまわん アーメン

説教：「天の国はその人たちのもの」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

11月1日に一番近い日曜日に召天者をしのぶ全聖徒主日を祝います。洗礼を受けたキリスト者は全て聖徒です。私たちは洗礼によって神さまからイエス様を衣として着せていただいたものです。神さまからご覧になって私たちはイエス様のゆえに聖なるものです。先に召された全キリスト者を記念する日として、礼拝の中で故人を偲びます。

昨日、甲山霊園で伊丹福音ルーテル教会の墓石前につどい、墓前礼拝をおこないました。テサロニケの信徒への第1の手紙4章13～14節を読みました。「兄弟たち、既に眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知っておいてほしい。イエスが死んで復活されたと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してくださいます。」と記されています。私たちの敬愛する大切な信仰の先輩方は今イエス様に確かに愛されて喜びの中に入れられています。また私たちも同じ信仰によってやがてお会いできるのです。このような希望が与えられているとは、なんと幸せなことでしょうか。同じイエス様を真ん中にして、先に召された方々は向こう側に、そして世にあって残る使命に歩む私たちはこちら側で、罪赦され、新しい命にあずかった幸いを喜び賛美するのです。毎週の礼拝は、小さな復活日、イースターです。イエス様が日曜日によみがえられたことを覚えて日曜日に礼拝します。私たちは

礼拝のたびによみがえりの希望を告白しています。いつかわからないですが、遅かれ早かれ私たちもこの世の生を終えて、神さまに導かれていきます。その日まで、愛する先輩方を導いてくださった神さまをほめたたえ、私たちも力を尽くし喜びをもって神さまの祝福を人々におとどける使命を果たしていきましょう。そこに本当の幸せがあります。

イエス様の教えはたくさん聖書に書かれていますが、今朝はマタイの福音書5章から「山上の垂訓」とよばれる説教の最初の箇所が開かれています。イエス様はここで、人間としての幸せ、人生の幸いとは何か、を語ってくださいました。

しかしイエス様のおっしゃる幸せは、少し私たちの常識とは違う幸せのようにおもうのですがいかがでしょうか。ここで8つの幸いを紹介して下さっています。これらは本当に幸いなことなのでしょうか。

心の貧しい人々、悲しむ人々は不幸せではないでしょうか。

柔和な人々、義にうえかわく人々、憐れみ深い人々、心の清い人々は、あまりにも純粋な姿で、世知辛い世の中を生き抜く苦勞を理解していないような世間知らずの人のように感じませんか。平和を実現する人々、義のために迫害される人々は、必ずしもしなくてもいい苦勞をかって出ているような殊勝な人で、自分の日常とはかけ離れた人の姿ではないでしょうか。

けれどもイエス様はこれらの人々を幸いな人、と呼びました。聖書では、幸い、というのは神さまと人の関係を示すことばです。私たちの考える常識的な幸福とは異質のものなのですね。

そうであれば、「こころの貧しい人」とはどんな意味でしょうか。自分のことばかり考えて人のことを考えない心の貧しさではなくて、自分の心には神さまの前に何も差し出す豊かさがない、誇らしいものはないことを自覚している人です。旧約聖書のイザヤ書57章15節で神さまは「わたしは、高く、聖なる所に住み、打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり、へりくだる霊の人に命を得させ、打ち砕かれた心の人に命を得させる。」とあります。また、詩編34編19節には「主は打ち砕かれた心に近くいまし、悔いる霊を救ってください」とあります。ですから、心の貧しい人とは、神さまの前で背伸びをせず、自分を誇らないでへりくだって、神さまの恵みと憐れみを求め信頼する人です。

私たちは人の前では緊張してよく見せようとしみます。また人が自分のことをどう思っているのか気になります。しかし、まことの神さまは本当のあなたをご存知です。そのうえであなたを愛して、あなたのすべての罪を赦すためにひとり子イエス・キリストをわたしにかわって十字架の上で死に渡してくださいました。イエス様のゆえに私は罪赦され、神さまの子どもとしての新しい命をいただきます。心貧しい人は、自分の力や業績を誇らず、謙遜に、自分の本当の

姿を全部神さまにそのまま見ていただいて、神さまからのプレゼントであるイエス様の赦しと命、つまり天の国を受け取る人です。マルティン・ルターは自分の死の直前に、「わたしは主の乞食です」という意味の言葉を綴りました。主イエス様の恵みによってのみ生かされているという思いをあらわしています。悲しむ人は自分の姿のふがいなさを死の痛みを感じるほどに悲しみ、神さまだけに期待して歩む人です。そして確かにイエス様によって慰めを受けます。そこに幸せがあるのです。

柔和な人々、義にうえかわく人々、憐れみ深い人々、心の清い人々の幸いはどんな幸いでしょうか。いつの時代も人は幸福を求めます。幸せをつかむために努力し、競争し、必死になります。また、現在の苦しみさえ取り除かれれば幸福になれる、この問題さえ乗り越えることができたら、幸せになる、と思います。柔和なもの、憐れみ深いもの、清いものはこの世で捨てられ、落伍者となると思いませんか。義に飢え乾いて正しいことだけを推し進めようとする、角が立ちます。人間関係がうまくいかなくなると思いませんか。

自分の罪をイエス様によって赦された人、全能の神さまにあたらしいいのちをいただいた人は、人を赦し、人にやさしくなります。人が不当に苦しんでいるのを見ると見過ごさないでできることで守ろうとします。自分の生活も罪や汚れから清くたもちます。イエス様のあたらしい命をいただいたら、そのような信仰の実を結んで歩むのです。自分の才能や力を自分の栄光のために使って一時的な喜びや満足を得ることは実はむなしいことだと知っていて、それよりも具体的なこの人、あの人の人生の豊かさに益するように、自分を磨いて用いる気持ちがこみあげてきます。そこに幸せがあります。

平和を実現する幸せとは何でしょうか。人間関係を考えると、人と自分のことばかりに考えが集中してしまいがちですが、人と人の間の平和を実現する者であることほど意義深いことはないのではないのでしょうか。常識的に平和をつくるというと、これ以上ケンカを続けるよりも両者がそれぞれ損を減らして得を増やすことができる打算的な姿を見せて、両者から和解という妥協を引き出すこととされています。しかし、人はどうなっても自分中心でわがままですから、人の力では赦しあったり、高めあったりする謙遜で建設的な平和の姿に心を変えることはできません。罪を赦す神さまの大きな愛と恵みを知らせることによってのみ平和を作り出すことは可能です。平和を乱す人ではなく、平和を実現する人、そんな人になりたいですね。そこに幸せがあります。

義のために迫害される人は幸せでしょうか。ただしいことを主張し、信念に基づいて行動することは、一般に多くの犠牲を余儀なくされます。その覚悟がないので、つまり迫害を恐れるのでただしいことを主張しなくなりますし、信念に正直に歩むことができません。イエス様はわたしを救うためにいのちを捨ててくださいました。命懸けのイエス様の愛によって神さまの

のへと買い戻された私たちです。慣習や偏見などが隔てとなって不当に苦しむ人を見殺しにせず、賢い手立てを打って助けることができるように、主イエス様は工夫の知恵と協力の力を与えてくださいます。そこに幸せがあります。

イエス様のためにののしられ、迫害され、身に覚えのない悪口を浴びせられるなら、本当に幸せでしょうか。むしろ、私たちの心は暗く寂しく絶望的になり、あるいは悔しい怒りで燃え上がるのが普通ではないでしょうか。これまで見てきたように、自分の力を誇らず、すべてをご存じの神さまの御前にへりくだって罪を赦された人は、それまでのプライドや駆け引きから解放されました。そこには、意固地な頑固さではなく凛とした威厳があります。悪に屈する弱々しさ自分よりも人を優先する優しさがあります。正しさと優しさを併せ持つ人は、理解されず、恐れられたり、軽く見られたり悪く言われたりすることもあるでしょう。しかし恐れしないで、むしろ大いに喜びましょう。助け導いてくださるイエス様を信じて歩みましょう。そこに幸せがあります。

イエス様によって聖徒とされた信仰の先輩の兄弟姉妹を覚える全聖徒主日の今朝、神さまは山上の垂訓を通して私たちにお語りくださいました。本当の幸せは、わたしの罪深さをすべてご存じの神さまが、それにもかかわらずご自分のひとり子イエス様によってわたしの罪を赦してくださった罪の赦しにあずかることです。

隠さなくても、背伸びしなくても、自虐的にならなくても、そのまま素直な心でイエス様の赦しをいただきます。先に主のもとに召された信仰の先輩の兄弟姉妹も、この赦しにあずかったからこそ聖なる人々、すなわち聖徒とみなされています。

本当の幸せはまた、赦されたものとして神のいのちに生きることです。赦しましょう。赦しあいましょう。不正から守りましょう。和解のために働きましょう。苦しみを覚悟して人の幸せを作りましょう。そこに幸せがあります。主にあって歩まれた信仰の先輩の兄弟姉妹も、人々の知らないそのような幸せを生きてこられました。

私たち一人一人は、与えられているいのちを、この世にあって日々大切にしましょう。あふれるばかりの神さまの愛があなたの心に豊かに宿る幸いな一週間となりますように。また、神さまの愛が、あなただけを満たすだけでとどまらないで、むしろあなたからあふれ出て人々を潤していく幸いな一週間となりますように。あなたが、神さまからいただいた使命にたつ威厳と、人を優先する優しさによって、人々をゆたかにしていく幸いな一週間をお送りになりますように、祝福し、お祈りいたします。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讚美歌 354 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 かいぬし わが主よ、迷う我らを 若草の野べに 導きたまえ。
われらを守りて 養いたまえ、我らは主のもの、主に贖(あがな)わる。
- 2 **良き友となりて 常にみちびき、まよわば尋ねて ひき返りませ。**
われらの祈りを 受入れたまえ、我らは主のもの、ただ主に頼る。
- 3 赦しのみちかい、救いのめぐみ、きよむる力は 皆主にぞある。
我らをあがない 生命をたまう、我らは主のもの、主に在りて生く。
- 4 **御慈愛(みいつくしみ)をば 我らに満たし、今よりみむねを なさしめ給え。**
我らをあわれむ み恵みぶかし、我らは主のもの、主をのみ愛す。 アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神(みかみ)に ときわに絶えせず み栄えあれ み栄えあれ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏